

現行グランドデザイン

将来像	賑わいあふれる多文化都市 誰もが安心して気持ちよく過ごせる人にやさしい蒲田
-----	--

基本方針	目標	アクションプラン
商業・にぎわい・ 交流の創出	1. いきいき元気な商業のまち	1-1 活気あふれる商店街づくり
		1-2 商店街の環境づくり
	2. 人が行き交うにぎわいのあるまち	2-1 人でにぎわう回遊路づくり
		2-2 快適な歩行者空間の整備
	3. 来街者を魅了し、何度も訪れたいまち	3-1 新たな観光施策の展開
		3-2 人や文化の交流促進
3-3 空港利用者サービスの向上		
都市機能の向上	4. ゆとりを感じる機能性の高い駅前広場	4-1 中心拠点としての駅前広場の再整備
		4-2 蒲田駅東西自由通路の整備
	5. 利便性の高い蒲田駅と公共交通	5-1 蒲田駅の再整備
		5-2 空港アクセス機能の強化
	6. 商・住の調和がとれたまち	6-1 建物の共同・協調化、建替えの促進
	7. 京急蒲田駅周辺のまちづくり	7-1 京急連続立体交差関連事業の整備
		7-2 京急蒲田駅周辺の新たな魅力づくり
まちの快適性の確保	8. 歩行者と自転車が快適に共存できるまち	8-1 自転車利用対策の推進
		8-2 放置自転車のないまちづくり
	9. 人にやさしいまち	9-1 ユニバーサルデザインの推進
		9-2 バリアフリー整備
	10. 安全で暮らしやすいまち	10-1 災害に強いまちづくりの推進
		10-2 犯罪のないまちづくり
	11. 清潔で美しいまち	11-1 清潔なまちの維持
		11-2 美しいまちなみの確保
	12. 水と緑のある潤いを感じるまち	12-1 水と緑の散策路づくり
		12-2 緑のやすらぎ空間づくり

一部は、7章「グランドデザインの実現に向けて」の改定に反映（エリアマネジメントなど）

区民参画の成果

（※2019年12月～2020年12月頃にかけて実施予定）

第1回専門部会の成果

主なご意見

- ・働く人や住む人たちに、蒲田駅周辺に留まってもらう視点が必要。
- ・広域拠点的功能と生活拠点的功能の両方を考える必要がある。
- ・自動車や駐車場についても整理をするべき。
- ・ソフト施策を動かすためには、エリアマネジメントや人づくりにも投資をするべき。
- ・住宅が増えていることに対する対応方を合わせて考える必要がある
- ・羽田空港跡地の動きが蒲田まで波及するような仕組みを考えなければいけない。
- ・回遊性を高めるための取組み（小さなモビリティの導入など）も考えた方がよい。

グランドデザインの改定において追加・強化すべき事項

- 産業**
 - ・ 駅とまちの一体的な整備や市街地の機能更新にあわせ、国際的な産業・ビジネス機能や外客受入機能を強化
 - ・ 羽田空港跡地整備との連携・役割分担
 - ・ 「商業・産業の街」から「居住の街」へと変化している状況への対応
- 生活**
 - ・ 市街地の機能更新などにあわせた、生活支援機能の強化
- 公共空間**
 - ・ 多様な人々が集い・出会い・交流できる空間や機会の拡充
 - ・ 駅周辺の公共施設を再編・活用
 - ・ 再開発や街区再編とも連携した公共空間の拡充
- エリアマネ**
 - ・ 地域の人々を中心とした公共空間の管理と活用
 - ・ 駅まちマネジメント・エリアマネジメント
 - ・ 観光協会・商店街・企業などとも連携しながら、蒲田駅周辺地域をPR・ブランディング など

まちづくりの課題

1. 上位計画における位置づけ
2. 大田区を取り巻く社会的な動向
3. まちの変化への対応（データ分析）
4. 現行GDに基づくまちづくりの進捗状況

グランドデザイン改定（たたき台）

将来像	賑わいあふれる多文化都市 誰もが安心して気持ちよく過ごせる人にやさしい蒲田
-----	--

基本方針	目標	アクションプラン
商業・にぎわい・ 交流の創出	1. いきいき元気な商業のまち	1-1 活気あふれる商店街づくり
		1-2 商店街の環境づくり
	2. 人が行き交い・留まりにぎわうまち	2-1 人でにぎわう回遊路づくり
		2-2 快適な歩行者空間の整備
		2-3 魅力的で留まりたい空間の創出【新AP】
	3. 何度も訪れたいまち	3-1 新たな観光施策の展開
3-2 人や文化の交流促進		
3-3 空港との連携による活力向上【現AP3-3を変更】		
都市機能の向上	4. ゆとりを感じる機能性の高い駅と駅前広場	4-1 蒲田駅の再整備【現AP5-1】
		4-2 駅前広場の再整備と活用【現AP4-1を変更】
		4-3 蒲田駅東西自由通路の整備【現AP4-2】
		4-4 駅とまちを繋ぐ歩行者空間の整備【新AP】
		4-5 空港アクセス機能の強化【現AP5-2】
		4-6 新空港線への乗換え空間の整備【新AP】
	5. 駅周辺のまちづくり	5-1 駅周辺の新たな魅力づくり【現AP7-2】
5-2 建物の共同化・協調化、建替えの促進【現AP6-1】		
まちの快適性の確保	6. 生活基盤が充実したまち	6-1 生活支援施設や公共施設の充実【新AP】
	7. 産業やビジネスが活性化するまち	7-1 駅前エリアにおける都市機能集積【新AP】
		7-2 国際的な産業・ビジネス機能の充実【新AP】
		7-3 滞在機能や交流機能の充実【新AP】
	8. 歩行者と車が快適に共存できるまち	8-1 自転車利用対策の推進
8-2 放置自転車のないまちづくり		
8-3 人と車が共存するまちづくり【新AP】		
9. 人にやさしいまち	9-1 ユニバーサルデザインの推進	
	9-2 バリアフリー整備	
10. 安全で暮らしやすいまち	10-1 災害に強いまちづくりの推進	
	10-2 犯罪のないまちづくり	
11. 清潔で個性のあるまち	11-1 清潔なまちの維持	
	11-2 個性のあるまちなみの確保【現AP11-2を変更】	
12. 水と緑のある潤いを感じるまち	12-1 水と緑の散策路づくり	
	12-2 緑のやすらぎ空間づくり	

本日の論点（決定したい部分）

※赤字は現行グランドデザインからの改定部分（たたき台）

現行グランドデザイン

目標1 いきいき元気な商業のまち		
アクションプラン	1-1 活気あふれる 商店街づくり	①地域イベントの活性化 ・商店街や区民が行う様々なイベントの連携・活性化を図る。 ・姉妹・友好都市や地域の学校などとも連携したイベントを支援し、魅力の向上を図る。 ②商店街・地域イベントの情報発信 ・商店街やイベントのPRを支援し、その強化に向けた方策を考える。 ③活力が持続する商店街づくり ・既存商店の後継者問題に取り組む。 ・空店舗に関する情報収集につとめるとともに、建物所有者、新たな出店者との協力・連携により、商店の連続性を確保。学生の増加に伴うニーズの変化にも対応しながら、幅広い年齢層でにぎわう商店街をつくる。
	1-2 商店街の 環境づくり	①商店街の景観 ・魅力向上に向けて、建物・景観・用途等のルールづくりを検討。 ・商店街とともに、そのイメージ・コンセプトに基づいた景観を整備。 ②環境にやさしい商店街づくり ・街路灯のLED化などの省エネ設備の導入、緑化の推進など環境にやさしいまちづくりを進め、区がこれを支援する。 ③清掃や見回り活動 ・清掃や見回り活動をさらに充実し、清潔で安心感のある環境をつくる

改定の理由

第1回専門部会

蒲田のまちづくりにおける課題

上位計画

- 地域特性を活かした商業の強化。飲食、物販などが集積し、多様な表情を持つ利便性の高いまちの構築
- 駅前広場や道路等を活用したイベントなどにより、にぎわいや交流の機会の創出

蒲田のまちの変化への対応(データ分析より)

- 若い単身世帯が増加している
 ⇒若い単身世帯のライフスタイルにも対応した商業についても考えることが必要
- 小売年間販売額は増加傾向にある。特に夜間人口(居住者等)の増加が著しい地区では年間販売額の増加も顕著である
 ⇒増加する居住者等を対象とした日用品の需要への対応が必要
- 小売店舗数、面積は年々減少傾向にある
 ⇒商店街や個人商店の活性化に向けた継続的な取り組みが必要

現行グランドデザインの目標やアクションプランの枠組みにはあてはまらない内容

- 多様な人々が集い・出会い・交流できる空間や機会の拡充
- 蒲田駅周辺地区のPR・商業振興・防犯活動・美化活動などを産官学民連携で進めていくことが必要
- 「商業・産業の街」から「居住の街」へと変化している状況への対応が必要

現行グランドデザインに基づくまちづくりの達成 【p13参照】

- 商店街の活性化施策のアクションプランを策定
- 蒲田駅東口商店街で、景観づくりに向けた協議会を設立→景観ルールづくりに取り組む

グランドデザインの改定(たたき台)

目標1 いきいき元気な商業のまち		
アクションプラン	1-1 活気あふれる 商店街づくり	改定後のアクションプラン の具体的な内容については 2020年度にかけて検討していきます
	1-2 商店街の 環境づくり	

※今後の取組みの方向性(案)を受けて、アクションプラン1-1および1-2の具体的な内容に反映

グランドデザインの改定において追加・強化すべき事項

1. 産官学民(商店街・観光協会・大学・住民など)が連携したパブリックスペースを活用したイベント等により、地域のにぎわいや交流を活性化 (アクションプラン1-1①の強化)
2. 若い単身者や居住者などのニーズにも対応した商店街をつくり、その活力を持続的に向上 (アクションプラン1-1③の強化)
3. 景観づくりに向けた体制や景観ルールづくりなどを進めて、魅力や個性のある商店街の景観整備を推進 (アクションプラン1-1③の強化)

第1回専門部会でいただいたご意見

4. 働く人や住む人たちに、蒲田駅周辺に留まってもらう視点が必要
5. 蒲田で何をするのか、蒲田独自の施策を打ち出す必要がある

今後の取組みの方向性(案)

- ① 産官学民の連携やパブリックスペースを活用したイベントや情報発信により、蒲田を訪れる人や蒲田のまちなかに留まる人を増やす (上記1・4を受けて設定/アクションプラン1-1に反映)
- ② 若い単身者・居住者・働く人にも訴求するような商店街をつくる (様々なライフスタイルに対応した商店街づくり・個性や雰囲気のある商店街の景観づくりなど) (上記2・3・4・5を受けて設定/アクションプラン1-1および1-2に反映)

現行グランドデザイン

目標2 人が行き交うにぎわいのあるまち		
アクションプラン	2-1 人でにぎわう 回遊路づくり	①呑川軸の整備 ・呑川の緑道が連続的な空間となる整備や隣接する公共空間の拠点整備で、魅力ある散策路をつくる。 ②回遊路の整備 ・さかさ川通りの整備でにぎわいを創出。 ・東西自由通路の整備で回遊性を高める。 ③サインの整備 ・統一感と分かりやすさを重視し、景観にも考慮したサインの整備
	2-2 快適な歩行者 空間の整備	①安心安全道づくり ・バリアフリー化の推進。 ②蒲・蒲連絡路の整備 ・まちのにぎわいの主軸となるJR・東急蒲田駅と京急蒲田駅間について、分かりやすく、歩きやすい歩行動線を確保。 ③主要施設誘導路の整備 ・蒲田駅・京急蒲田駅から、区民ホール「アプリコ」や大田区総合体育館（仮称）など周辺主要施設へ円滑に移動できるような整備

改定の理由

第1回専門部会

蒲田のまちづくりにおける課題

上位計画

➢ 駅や駅前広場などにおける歩行者空間の拡充や、サインや観光情報センター等の案内や情報発信の改善など

まちの変化への対応（データ分析より）

➢ 蒲田駅と北東方向（ぽぷら一ど等）や北西方向（すずらん通り等）を往来する歩行者が減少傾向にある
 ⇒ 蒲田駅から北東方向・北西方向へと歩行者を導く取組みの検討が必要
 ➢ 蒲田駅から南東方面（アプリコ等）や南方面を往来する歩行者が増加傾向にある
 ⇒ 蒲田駅から南東方向や南方向への歩行者動線を強化することの検討が必要

現行グランドデザインの目標やアクションプランの枠組みにはあてはまらない内容

➢ 多様な人々が集い・出会い・交流できる空間の拡充

現行グランドデザインに基づくまちづくりの達成 【p13参照】

➢ さかさ川通りの整備（H27年度）
 ➢ 観光案内サインの盤面更新

グランドデザインの改定において追加・強化すべき事項

1. 商業中心軸・呑川軸・東西自由通路・歩行者回遊軸などを対象として、サイン・舗装・植栽等の整備や無電柱化等を推進することにより、歩きたくなる街路空間を形成（アクションプラン2-1①・②・③、2-2①・②に対応）
2. 道路と沿道敷地が連携しながら、滞留空間や賑わい空間などを充実させることにより、まちなかの魅力を向上（対応するアクションプランは無い）

第1回専門部会でいただいたご意見

3. 地元の方々と話すと、まちの回遊性を重要なテーマとして挙げている
4. 働く人や住む人たちに、蒲田駅周辺に留まってもらう視点が必要
5. 蒲田で何をするのか、蒲田独自の施策を打ち出す必要がある

今後の取組みの方向性（案）

- ① 商業中心軸・呑川軸・東西自由通路・歩行者回遊軸などを対象として「歩きやすく快適な歩行者空間」をつくる（上記1・3・5を受けて設定／アクションプラン2-1や2-2に反映）
- ② 道路と沿道敷地が連携しながら、「魅力的で留まりたくなる空間」をつくる（上記2・4・5を受けて設定／目標の文言変更や新たなアクションプラン2-3を追加）

グランドデザインの改定（たたき台）

※赤字は改定部分と改定理由

目標2 人が行き交い・留まり・にぎわうまち		
アクションプラン	2-1 人でにぎわう 回遊路づくり	
	2-2 快適な歩行者 空間の整備	改定後のアクションプランの具体的な内容については2020年度にかけて検討していきます
	2-3 魅力的で留まり たくなる空間の 創出	

【改定理由】

今後の取組みの方向性（案）を受けて、目標②の文言を変更し、新たなアクションプラン2-3を追加

※小さなモビリティの導入については、その導入効果や新空港線とのなどを含めて、引き続き検討していく。

現行グランドデザイン

目標3 来街者を魅了し、何度も訪れたくなるまち		
アクションプラン	3-1 新たな観光施策の展開	①観光のまちづくり ・蒲田の食文化や商いの魅力を活かし、新たな観光資源発掘 ・蒲田をPRするキャンペーンやイベントを実施 ②蒲田の魅力発信 ・駅周辺やエリア内の公共施設における観光情報の提供・案内機能の充実 ・観光情報サイトやマップを作成するなど、蒲田の「知る人ぞ知る魅力」を区内外に発信 ③おもてなしのまちづくり ・国内外の来街者が居心地よく過ごせるよう、おもてなし意識の向上 ・多言語表示の案内板や、商店向け外国語対応会話集・メニューなどを作成し、地域で活用
	3-2 人や文化の交流促進	①地域活動への呼びかけ・連携 ・商店街、町会、自治会等のイベント・防災訓練等のPRを強化するとともに、周辺の学校も含めた地域コミュニケーションの充実を図る。 ②観光サポーターや地域ガイドの育成・充実 ・まちづくりと連携した観光の人材育成と組織化を図る。 ③外国人との交流促進 ・多文化共生推進センターなどの施設を活用して、在住外国人との交流や支援を推進 ・地域行事への参加を呼びかけ、地域交流を高める
	3-3 空港利用者サービスの向上	①空港利用者向けサービス施設配置の検討 ・羽田空港総合案内所など利用者にとって便利な施設の設置可能性について、関係機関と検討を進める。 ②空港アクセス向上のための交通手段の検討 ・新空港線整備促進。羽田空港への直行バス運行の実現を事業者に働きかける

改定の理由

第1回専門部会

蒲田のまちづくりにおける課題

上位計画

- 羽田空港と連携して国内外のワーカーや観光客などを受入れる機能を強化
- 新空港線整備や蒲田駅再生整備により、羽田空港へのアクセス性を強化し、外客受入戦略拠点としての基盤を構築

まちの変化への対応(データ分析より)

- 外国人(住む人・訪れる)の増加
 ⇒外国人も安心して暮らせるまちづくり(地域活動・行事の呼びかけ、交流支援など)が必要
 ⇒サインなどの多言語表示案内が必要
 ⇒観光に関わる人材の育成と組織化が必要(地域のPRや案内を行う人材・組織など)

現行グランドデザインに基づくまちづくりの進捗(推進上の課題・未達成の理由)

- 空港利用者向けのサービスとその提供方法の検討が必要
 ⇒羽田空港及び羽田空港跡地整備事業との連携・役割分担

現行グランドデザインの目標やアクションプランの枠組みにはあてはまらない内容

- 駅とまちの一体的な整備や市街地の機能更新にあわせて、国際的な産業・ビジネス機能や外客受入機能を強化
- 蒲田駅周辺地区のPR・商業振興・防犯活動・美化活動などを産官学民連携で進めていくことが必要
- 多様な人々が集い・出会い・交流できる空間の拡充

現行グランドデザインに基づくまちづくりの達成

- 新空港線の第1段階として、東急多摩川線を京急蒲田駅までつなぐ整備案を作成
- 羽田空港直行バスの運行(平成22年)、増便(平成29年)

グランドデザインの改定において追加・強化すべき事項

- 外国人も安心して訪れ・暮らすことのできるまちづくり (アクションプラン3-1③・3-2③に対応)
- 羽田空港跡地第1ゾーン整備事業(研究開発・滞施設・会議場・イベントホール等)と連携して、その効果を蒲田にも波及させ、蒲田の活力を向上 (対応するアクションプランは無い)

第1回専門部会でいただいたご意見

- 羽田空港跡地で行うビジネスマッチングの効果が蒲田などに及ばないと意味が無い
羽田空港跡地の動きが蒲田まで波及するような仕組みを考えなければいけない
- 新空港線整備はまちづくりとセットと考えているので、駅前だけではなく、広がりを持ったまちづくりを考えていきたい
- 蒲田で何をするのか、蒲田独自の施策を打ち出す必要がある

今後の取組みの方向性(案)

- 新空港線整備を最大限に生かし、羽田空港および羽田空港跡地第1ゾーン整備事業と連携して、蒲田における国際的な産業・ビジネス機能・外客受入機能・交流機能などを強化する(上記1・2・3・5を受けて設定/アクションプラン3-3に反映)
- 商店街・企業・観光協会などが連携して蒲田のPR等を行うことにより、空港などから蒲田を訪れる国内外の来街者を増やすとともに、蒲田においてその魅力を伝え、蒲田のリピーターを増やす。(上記4・5を受けて設定/アクションプラン3-3に反映)

グランドデザインの改定(たたき台)

※赤字は改定部分と改定理由

目標3 何度も訪れたくなるまち		
アクションプラン	3-1 新たな観光施策の展開	
	3-2 人や文化の交流促進	
	3-3 空港との連携による活力向上	

改定後のアクションプランの具体的な内容については2020年度にかけて検討していきます

【改定理由】

今後の取組みの方向性(案)を受けて、目標3およびアクションプラン3-3の文言を変更

現行グランドデザイン

目標4 ゆとりを感じる機能性の高い駅前広場		
アクションプラン	4-1 中心拠点としての駅前広場の再整備	①安心安全な歩行者空間づくり ・バリアフリー化整備の促進 ・駅前広場の立体的利用などによる歩行者空間確保の検討 ②交通結節機能の向上 ・バス乗降場やタクシー乗り場などのより良い場所への設置検討 ・空港アクセス向上のための新空港線整備を促進 ③快適な駅前環境づくり ・駅前広場施設の再整備などにより、良好な駅前環境を維持
	4-2 蒲田駅東西自由通路の整備	①既存東西連絡通路の改善 ・将来の駅舎・駅ビルの再開発に合わせて、蒲田駅東西駅ビルをつなぐコンコースの総合的な改善の検討 ②東西自由通路の新設 ・駅北側・南側線路上への連絡橋の設置や、自由通路の設置について検討

【改定理由】「駅とまちの繋がり強化」や「新空港線の整備」等を考慮して、駅前広場と駅を一体的に捉える必要があることから、目標4と5を統合

＋ 統合

目標5 利便性の高い蒲田駅と公共交通		
アクションプラン	5-1 蒲田駅の再整備	①蒲田駅再生整備の促進 ・鉄道事業者や関係者と、交通拠点となる蒲田駅の機能強化を目指し、老朽化した駅ビルの建替えを含め、実現に向けた取り組みを進める。
	5-2 空港アクセス機能の強化	①新たなアクセス交通網の拡充 ・区内東西交通の解消 ・羽田空港へのアクセス強化のための新空港線実現に向けた取り組み。 ②既存交通網の拡充 ・羽田空港へ直行バスの運行を事業者等への働きかけ。 ・京急連続立体交差に伴うバス路線経路の検討。

グランドデザインの改定（たたき台）

※赤字は改定部分と改定理由

目標4 ゆとりを感じる機能性の高い駅と駅前広場		
アクションプラン	4-1 蒲田駅の再整備	改定後のアクションプランの具体的な内容については2020年度にかけて検討していきます
	4-2 駅前広場の再整備と活用	
	4-3 蒲田駅東西自由通路の整備	
	4-4 駅とまちを繋ぐ歩行者空間の整備	
	4-5 空港アクセス機能の強化	
	4-6 新空港線への乗換え空間の整備	

【改定理由】今後の取組みの方向性(案)を受けて、目標4と5と統合し、アクションプラン4-2を変更し、アクションプラン4-4と4-6を追加。

改定の理由

第1回専門部会

蒲田のまちづくりにおける課題

上位計画

- 駅前広場の整備などにより、公共交通の利便性を向上し交通結節機能を強化
- 東海道軸上に位置し、羽田空港に近接する蒲田を、国内外ネットワークの結節点へと進化
- 東西自由通路の整備、駅舎や駅ビルの機能更新など、基盤施設を一体的に捉えた整備により、市街地の分断を解消し駅周辺エリアの回遊性・にぎわいを向上。

社会的な動向

- 近年、駅前広場等を活用したイベント等による地域交流が進められている(姫路・大阪など)

まちの変化への対応(データ分析より)

- 鉄道駅(3路線)の利用者は年々増加傾向にある
- 駅舎・駅ビルに出入りする歩行者は増加傾向にある
⇒ 駅利用者の増加に応じて、駅前広場や自由通路を拡充していくことが必要

現行グランドデザインに基づくまちづくりの進捗(推進上の課題・未達成の理由)

- 駅・駅前広場・東西自由通路・新空港線・駅周辺再開発などを一体的に捉えた機能更新の検討が必要 ⇒ 関係者間による継続的な検討・協議の実施

現行グランドデザインに基づくまちづくりの達成 【p13参照】

- JR蒲田駅西口駅前広場の整備(初動期)の完了
- JR蒲田駅東口駅前広場の整備(初動期)の都市計画決定(H28.2)および事業認可(H28.4)
- 京急蒲田駅の西口駅前広場の整備(平成27年)および東口駅前広場の整備(平成28年)
- 新空港線の第1段階として、東急多摩川線を京急蒲田駅までつなぐ整備案を作成
- 羽田空港直行バスの運行(平成22年)、増便(平成29年)

グランドデザインの改定において追加・強化すべき事項

1. 駅利用者の増加や新空港線整備にも対応した、駅・東西自由通路・駅前広場の整備 (アクションプラン4-1、4-2、5-1に対応)
2. 周辺のまちへと誘導して活力向上にもつなげるような、東西自由通路・駅舎・駅ビル・駅前広場の整備 (対応するアクションプランは無い)
3. 駅前広場の有効活用による地域交流の促進(対応するアクションプランは無い)
4. 新空港線とJR線・東急線・京急線の結節機能の強化(対応するアクションプランは無い)

第1回専門部会でいただいたご意見

5. 地元の方々と話す、まちの回遊性を重要なテーマとして挙げている
6. 回遊性を高めるための取組みも考えた方が良い

今後の取組みの方向性(案)

- ① 駅前広場は、活用にも考慮して、検討・整備を進める (上記1・3を受けて設定/アクションプラン4-2に反映)
- ② 東西自由通路・駅舎・駅ビル・駅前広場は、駅利用者の増加・新空港線整備・駅に集まる人を周辺のまちへと導くことも考慮して、検討・整備を進める (上記2・5・6を受けて設定/アクションプラン4-1・4-2・4-3に反映。新たなアクションプラン4-4を追加)
- ③ 駅周辺の歩行者空間は、新空港線を含む異なる鉄道路線の乗換えや、鉄道とバスの乗換え利便性などにも考慮して、検討・整備を進める(上記2・3、4を受けて設定/新たなアクションプラン4-6を追加)

現行グランドデザイン

目標6 商・住の調和がとれたまち		
アクションプラン	6-1 建物の共同化・ 協調化、 建替えの促進	①商業を中心に住居と融合した土地利用 ・商業エリアは低層階に商業・業務の置き込みで連続性を確保し、高層階を住宅等とすることで、店舗と住宅が融合したまちづくりを促進。 ②地区計画等の導入 ・まちなみ誘導型の地区計画などの導入により、建物更新を促進。 ③建物の建替えの促進 ・建物更新を図るための取り組みを検討。 ・低炭素社会実現の視点も踏まえ、建替え時における再生可能な建築資材の使用や自然エネルギーを活用した省エネ設備の設置を促進。

＋ 統合

目標7 京急蒲田駅周辺のまちづくり		
アクションプラン	7-1 京急連続立体 交差関連事業 の整備	①京急連続立体交差事業の推進 ・京急連続立体交差事業を推進し、高架下は自転車駐車場などの有効活用に向けて検討 ②京急連続立体交差事業関連まちづくりの推進 ・京急連続立体交差事業に伴い、駅前広場や関連側道などの周辺整備を推進
アクションプラン	7-2 京急蒲田駅 周辺の新たな 魅力づくり	①再開発、建物共同化等の推進 ・駅西口地区の再開発や建物の共同化を推進 ②周辺施設の整備 ・（仮称）大田区総合体育館や隣接する公園の整備を進める ③サインの整備 ・分かりやすい、景観の視点も考慮したサインを整備 ④地域の特徴を活かした魅力づくり ・地域の特徴を活かしながらまちの新たな魅力づくりを進める

グランドデザインの改定（たたき台）

※赤字は改定部分と改定理由

目標5 駅周辺のまちづくり		
アクションプラン	5-1 駅周辺の新たな魅力づくり	改定後の アクションプラン の具体的な内容 については 2020年度にかけて 検討していきます
アクションプラン	5-2 建物の共同化・協調化、 建替えの促進	

改定の理由

第1回専門部会

蒲田のまちづくりにおける課題【現行 目標7】

上位計画

➢ 東海道軸上に位置し、羽田空港に近接する蒲田を、国内外ネットワークの結節点へと進化【資料4】

まちの変化への対応（データ分析より）

- 鉄道駅（3路線）の利用者は年々増加傾向にある
- 比較的小規模な建築物が高密度で集積、駅周辺の建物は老朽化が進んでいる
⇒共同化や建替えの検討が必要。建替えに合わせ歩行空間の拡充や、街区再編、大街区可も含めた検討が必要
- 蒲田駅周辺地区全体として容積利用率が低い。蒲田駅前においても、使用容積率が半分程度
⇒土地の高度利用等に合わせて、商業・業務・生活利便機能等を充実させていくことが必要

現行グランドデザインに基づくまちづくりの達成 【p13参照】

- 南蒲田交差点の立体化（平成24年）
- 京急連続立体交差事業の完了（平成24年）
- 京急高架下を活用した自転車駐車場の整備（平成28年）
- 蒲田4-2地区都心共同住宅供給事業完了（平成19年度）
- 蒲田4-1地区都心共同住宅供給事業完了（平成24年度）
- 京急蒲田西口駅前地区第一種市街地再開発事業の完成（平成27年）
- 京急蒲田駅の西口駅前広場の整備（平成27年）および東口駅前広場の整備（平成28年）
- 大田区総合体育館および隣接する東蒲田公園の完成（平成24年）
- 京急蒲田センターエリア南第二地区（蒲田四丁目16番街区）共同化事業（事業中）

今後の取組みの方向性（案）

- ① 現行グランドデザインのアクションプラン7-1①・7-1②・7-2②が達成された。残るアクションプラン7-2①・7-2③・7-2④は、京急蒲田駅周辺に限らずに全域で推進すべきであるため、【現行 目標6】と統合し、新たな目標やアクションプランの設定を行う。
- ② 歩行者空間の拡充や街区再編、大街区化も視野に入れた共同化や再開発などを促進する（上記1を受けて設定/新たなアクションプラン5-2を追加）

【現行 目標6】の課題等は次ページ

現行グランドデザイン

目標6 商・住の調和がとれたまち		
アクションプラン	6-1 建物の共同化・ 協調化、 建替えの促進	①商業を中心に住居と融合した土地利用 ・商業エリアは低層階に商業・業務の置き込みで連続性を確保し、高層階を住宅等とすることで、店舗と住宅が融合したまちづくりを促進。 ②地区計画等の導入 ・まちなみ誘導型の地区計画などの導入により、建物更新を促進。 ③建物の建替えの促進 ・建物更新を図るための取り組みを検討。 ・低炭素社会実現の視点も踏まえ、建替え時における再生可能な建築資材の使用や自然エネルギーを活用した省エネ設備の設置を促進。

グランドデザインの改定（たたき台）

※赤字は改定部分と改定理由

目標6 生活基盤が充実したまち		
アクションプラン	6-1 生活支援施設や公共施設の充実	改定後の アクションプラン の具体的な内容 については 2020年度にかけて 検討していきます

＋ 分割

目標7 産業やビジネスが活性化するまち		
アクションプラン	7-1 駅前エリアにおける 都市機能の集積	改定後の アクションプラン の具体的な内容 については 2020年度にかけて 検討していきます
	7-2 国際的な産業・ビジネス 機能の充実	
	7-3 滞在機能や交流機能 の充実	

改定の理由

第1回専門部会

蒲田のまちづくりにおける課題【現行目標6】

まちの変化への対応（データ分析より）

- 小売年間販売額は増加傾向にある。特に夜間人口（居住者等）の増加が著しい地区では年間販売額の増加も顕著である ⇒増加する居住者等を対象とした日用品の需要への対応が必要
- 港区・品川区・千代田区や神奈川県で働く人も多い
- 事務所や工場が減少し、集合住宅が増加している
- 事業所数は減少傾向にある
- 空室率は減少傾向にある。賃料水準は近隣の区に比べると低い ⇒「リーズナブル」という強みも活かしながら「蒲田で働く場所」「蒲田で働く人」を増やして、地域経済を活性化させることが必要
- ホテルが増加しており、その稼働率は高い。羽田空港向けのホテルの増加が顕著。外国人の宿泊者が増加 ⇒増加するホテル需要や外国人への対応が必要
- 比較的小規模な建築物が高密度で集積、駅周辺の建物は老朽化が進んでいる ⇒共同化や建替えの検討が必要。建替えに合わせ歩行空間の拡充や街区再編、大街区化も含めた検討が必要
- 蒲田駅周辺地区全体として容積利用率が低い。蒲田駅前においても、使用容積率が半分程度 ⇒土地の高度利用等に合わせて、商業・業務・生活利便機能等を充実させていくことが必要

現行グランドデザインの目標やアクションプランの枠組みにはあてはまらない内容

- 駅とまちの一体的な整備や市街地の機能更新にあわせて、国際的な産業・ビジネス機能や外客受入機能を強化
- 市街地の機能更新などにあわせて、生活支援機能（図書館、保育所、病院、健康施設等）を強化
- 駅周辺の公共施設を再編・活用

グランドデザインの改定において追加・強化すべき事項

1. 居住者の増加に対応するため、市街地の機能更新などに合わせ、生活支援機能（図書館、保育所、病院、健康施設等）を強化（アクションプラン6-1①に対応）
2. 居住者の増加に対応して、駅周辺の公共施設の再編や活用を検討（対応するアクションプランは無い）
3. 事業所の減少や外国人の増加を踏まえて、市街地の機能更新にあわせて、国際的な産業・ビジネス機能や交流機能を強化（対応するアクションプランは無い）
4. 羽田空港跡地整備事業（研究開発・滞在施設・会議場・イベントホール等）や新空港線整備と連携して、その効果を蒲田にも波及させる（対応するアクションプランは無い）

第1回専門部会でいただいたご意見

5. 生活拠点の機能と広域拠点の機能の両方を考える必要がある
6. 住宅が増えていることに対する対応方策を考える必要がある
7. 羽田空港跡地で行うビジネスマッチングの効果が蒲田などに及ばないと意味が無い。羽田空港跡地の動きが蒲田まで波及するような仕組みを考えるべき

今後の取組みの方向性（案）

- ① 共同化や再開発などに合わせて、生活支援機能や産業・ビジネス機能等を誘導する（上記1・6を受けて設定/新たなアクションプラン6-1や7-2を追加）
- ② 公共施設の再編や機能強化の検討を進める（上記2・6を受けて設定/新たなアクションプラン6-1を追加）
- ③ 羽田空港跡地第1ゾーン整備事業や新空港線整備とも連携して、蒲田の国際的な産業・ビジネス機能を強化する（上記3・4・7を受けて設定/新たな目標7を追加。新たなアクションプラン7-2を追加）
- ④ 滞在機能や交流機能（会議室・ホールなど）を強化して、産業・ビジネスの活力向上へと繋げる（上記3・7を受けて設定/新たな目標7を追加。新たなアクションプラン7-3を追加）

現行グランドデザイン

目標8 歩行者と自転車が快適に共存できるまち		
アクションプラン	8-1 自転車利用対策の推進	①蒲田駅周辺自転車駐車場の整備 ・暫定自転車駐車場整備や既存自転車駐車場の再整備、利用実態に合わせた再配置を検討。 ・「地域力を生かした大田区まちづくり条例」に基づき、駅周辺での新たな自転車駐車場整備を検討。 ②京急蒲田駅周辺自転車駐車場の整備 ・既存自転車駐車場や京浜急行線高架下の活用による整備 ③自転車利用環境整備の推進 ・走行レーンやサイン等の整備。
	8-2 放置自転車のないまちづくり	①放置自転車対策 ・放置自転車撤去 ②自転車利用者への啓発 ・区報などの活用や地域住民からの呼びかけなどで、利用者への啓発を推進

改定の理由

第1回専門部会

蒲田のまちづくりにおける課題

社会的な動向

➢ 歩行者と自転車が安心・安全に通行できる空間の確保や、コミュニティサイクルの拠点整備による回遊性の向上・にぎわいの創出

まちの変化への対応(データ分析より)

- 放置自転車等の撤去活動や駐輪場への誘導などが促進され、放置自転車は大幅に減少。
⇒今後も新たな自転車駐車場の整備、放置自転車の撤去や、啓発などのソフト施策の継続的な活動が必要
- 駅周辺で自転車盗難が増加。平成30年度は都内でワースト2位。犯罪発生件数も多い。
⇒今後も防犯パトロールの継続と強化が必要
- 歩行者回遊軸から出入りする駐車場が相当数存在する。一方で、空きが目立つ駐車場も存在する。
⇒歩行者回遊軸への自動車の過度な流入を抑制に向けた、駐車場の隔地や集約化の検討

グランドデザインの改定(たたき台)

※赤字は改定部分と改定理由

目標8 歩行者と車が快適に共存できるまち		
アクションプラン	8-1 自転車利用対策の推進	改定後のアクションプラン の具体的な内容については 2020年度にかけて検討していきます
	8-2 放置自転車のないまちづくり	
	8-3 人と車が共存するまちづくり	

【改定理由】

今後の取組みの方向性(案)を受けて、目標8の文言を変更し、アクションプラン8-3を追加

現行グランドデザインに基づくまちづくりの達成 【p13参照】

- 区役所本庁舎前やアロマスクエア等の自転車駐車場の収容台数を増加
- 蒲田駅西口呑川横に一時自転車駐車場を整備
- 京急高架下を活用した自転車駐車場等の整備
- 自転車ネットワーク整備実施計画の策定(H27)
- 放置自転車の減少

グランドデザインの改定において追加・強化すべき事項

1. 歩行者の安全性や快適性向上のため、駐車場の隔地や集約化などを検討
(対応するアクションプランは無い)

第1回専門部会でいただいたご意見

2. 自動車や駐車場についても整理をするべき

今後の取組みの方向性(案)

- ① 歩行者と自動車の共存に向けて、駐車場の隔地や集約化などについて検討する
(上記1・2を受けて設定/新たなアクションプラン8-3を追加)

現行ランドデザイン

目標9 人にやさしいまち		
アクションプラン	9-1 ユニバーサルデザインの推進	①ユニバーサルデザイン基本方針に基づくまちづくりの推進 ・ユニバーサルデザイン基本方針に基づき、誰もが利用しやすいまちとなる取組み。 ②心のバリアフリーの推進 ・豊かな心を育む「心のバリアフリー」教育を進める
	9-2 バリアフリー整備	①バリアフリー基本構想の推進 ・バリアフリー基本構想に基づき、蒲田駅周辺を重点整備地区に指定し、バリアフリー化を推進 ②民間建築物のバリアフリー化促進 ・バリアフリー基本構想に基づき、行政が行う基盤・公共施設の整備のほか民間が所有する建築物についてもバリアフリー化を促進。

改定の理由

第1回専門部会

蒲田のまちづくりにおける課題（第1回専門部会にて提示）

社会的な動向

➢ 高齢者・障がい者・妊婦・子ども・外国人などにも配慮したまちづくりが進められている

まちの変化への対応（データ分析より）

➢ 外国人（住む・訪れる）の増加
⇒外国人も利用しやすいまちとなる取組みが必要

現行ランドデザインの目標やアクションプランの枠組みにはあてはまらない内容

➢ 多様な人々が集い・出会い・交流できる空間の拡充

現行ランドデザインに基づくまちづくりの達成【p13参照】

➢ 蒲田駅周辺地区の移動等円滑化推進計画（かまた街なか“すいすい”プラン）の策定（H24.3）

ランドデザインの改定において追加・強化すべき事項

1. 増加する外国人（住む人・訪れる）にも対応した、誰もが利用しやすいまちとなるための取組み

今後の取組みの方向性（案）

① 外国人も含めた誰もが利用しやすいまちとなるため、ユニバーサルデザインに取り組む。
（上記1を受けてアクションプラン9-1に反映）

ランドデザインの改定（たたき台）

目標9 人にやさしいまち		
アクションプラン	9-1 ユニバーサルデザインの推進	改定後のアクションプランの具体的な内容については2020年度にかけて検討していきます
	9-2 バリアフリー整備	

※今後の取組みの方向性（案）を受けて、アクションプラン9-1の具体的な内容に反映

現行グランドデザイン

目標10 安全で暮らしやすいまち		
アクションプラン	10-1 災害に強いまちづくりの推進	①建築物の耐震化 ・建築物の建替え・改修時における耐震化を促進 ②防災意識の向上 ・防災訓練、講習などにより地域全体の防災意識と技術引き続き高める ・住民同士の連携、行政との協働による活動をさらに推進。
	10-2 犯罪のないまちづくり	①治安維持のためのルールづくり ・地域住民を主体に、犯罪のない、安心して過ごせるまちを目指すルールづくりなど行政と連携した対策の取組み。 ②地域のでつくる安全なまち ・美化活動（アクションプラン11-1に統合） ・地域で防犯灯・防犯カメラ等の活用、検討

グランドデザインの改定（たたき台）

目標10 安全で暮らしやすいまち		
アクションプラン	10-1 災害に強いまちづくりの推進	改定後のアクションプランの具体的な内容については2020年度にかけて検討していきます
	10-2 犯罪のないまちづくり	

【改定理由】
今後の取組みの方向性(案)を受けて、アクションプラン10-1の具体的な内容に反映

改定の理由

第1回専門部会

蒲田のまちづくりにおける課題

上位計画

➢ 地域が主体となった防災力の維持・強化が必要

社会的な動向

➢ まちづくり(建替え・共同化など)とも連携しながら無電柱化を推進
➢ 東日本大震災(平成23年3月)後、巨大地震などの未曾有の自然災害にも対応する安心・安全なまちづくりへの高まり

まちの変化への対応(データ分析より)

➢ 建築物の不燃化率は上昇している
⇒今後も不燃化に向けた継続的な取組みが必要
➢ 駅周辺で自転車盗難が増加。犯罪件数も多い
⇒今後も防犯パトロールの継続と強化が必要

現行グランドデザインの目標やアクションプランの枠組みにはあてはまらない内容

➢ 蒲田駅周辺地区のPR・商業振興・防犯活動・美化活動などを産官学民連携で進めていくことが必要

現行グランドデザインに基づくまちづくりの達成 【p13参照】

➢ 防犯カメラや防犯灯の設置
➢ 建物の耐震化費用の助成
➢ 地域住民によるパトロール

グランドデザインの改定において追加・強化すべき事項

1. まちづくり(再開発・共同化・建替え等)と連携した無電柱化の推進 (対応するアクションプランは無い)
2. 大規模災害時における帰宅困難者への対応 (対応するアクションプランは無い)

今後の取組みの方向性(案)

① 防災などの観点から、まちづくり(再開発・共同化・建替え等)と連携して無電柱化を推進する
(上記1を受けて設定/アクションプラン10-1に反映)
② 帰宅困難者に対応する取組み(受入施設・案内誘導・関係者間の連携等)に関する検討
(上記2を受けて設定/アクションプラン10-1に反映)

現行ランドデザイン

目標11 清潔で美しいまち		
アクションプラン	11-1 清潔なまちの維持	①美化活動の促進 ・地域住民・事業者が主体となった、美化活動の推進。 ②清潔で好感度の高いまちづくり ・サイン・看板、設備機器等が汚れていたり、壊れたまま放置されないようなまちをつくる。 ・建物や周辺の衛生保持を推進
	11-2 美しいまちなみの確保	①景観計画・ガイドライン等の策定 ・大田区景観計画（平成25年10月）に基づき、良好な景観形成の誘導 ②歴史的資源などの活用 ・まちなかに存在する地域の歴史・文化をとどめる資源を保全し、まちの風格・味わいを高める。

改定の理由

第1回専門部会

蒲田のまちづくりにおける課題

現行GDに基づくまちづくりの進捗（推進上の課題・未達成の理由）

- 地域の歴史や文化を含めた“蒲田の資源”の明確化や、その保存や活用に向けた活動の展開が必要

現行ランドデザインの目標やアクションプランの枠組みにはあてはまらない内容

- 蒲田駅周辺地区のPR・商業振興・防犯活動・美化活動などを産官学民連携で進めていくことが必要

現行ランドデザインに基づくまちづくりの達成 【p13参照】

- 清掃活動の実施
- 違法看板などの路上障害物対策の実施

ランドデザインの改定（たたき台）

※赤字は改定部分と改定理由

目標11 清潔で個性のあるまち		
アクションプラン	11-1 清潔なまちの維持	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> 改定後のアクションプラン の具体的な内容については 2020年度にかけて検討していきます </div>
	11-2 個性のあるまちなみの確保	

【改定理由】

今後の取組みの方向性(案)を受けて、目標11の文言を変更し、アクションプラン11-2の文言を変更

第1回専門部会でいただいたご意見

1. 蒲田で何をするのか、蒲田独自の施策を打ち出す必要がある。

今後の取組みの方向性(案)

- ① 地域の資源や個性を活かしたまちなみの形成に向けた取組みを検討する
 （場の個性を引き立てるような舗装・植栽・案内看板等を地域が中心となって検討・設置するなど）
 （上記1を受けて設定／目標11やアクションプラン11-2の文言を変更）

現行ランドデザイン

目標12 水と緑のある潤いを感じるまち		
アクションプラン	12-1 水と緑の散策路づくり	①呑川軸の整備 ・呑川沿いに街路樹を植樹し、護岸の壁面緑化を行う。 ・沿道を遮熱性舗装などで整備し、路面温度上昇を防ぐ ・今後の自転車駐車場の整備に伴い、呑川沿いの自転車駐車場の整理。 ②呑川の水質改善 ・呑川を親水空間とするため、産・官・学が連携して、呑川の水質浄化対策に取り組む。 ③緑道、歩道等の再生整備 ・さかさ川道路やシンボル道路等、散策路を整備
	12-2 緑のやすらぎ空間づくり	①魅力ある公園づくり ・駅前広場等公共広場を再整備し、緑あふれる憩いの場づくりなど、快適に過ごせる空間を確保 ②魅力ある緑化づくり ・公園のリニューアルや緑地整備、地域のふれあいパーク活動も継続しながら、魅力ある公園緑地づくりを進める。

改定の理由

第1回専門部会

蒲田のまちづくりにおける課題

社会的な動向

- 開発や線路の地下化に合わせた緑化の推進

蒲田のまちの変化への対応（データ分析より）

- 緑被率減少傾向にある
⇒駅前広場等に緑を配置。緑あふれる憩いの場づくり。

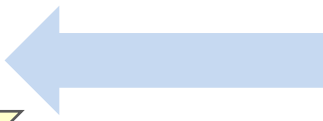
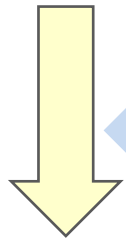
現行ランドデザインに基づくまちづくりの達成 【p13参照】

- 仲蒲田公園の改修（H28）
- 東蒲田公園の整備（H24）



今後の取組みの方向性（案）

- ① 建物の共同化・再開発・壁面後退・駅前広場整備・新空港線整備等に合わせた緑化の推進



ランドデザインの改定（たたき台）

目標12 水と緑のある潤いを感じるまち		
アクションプラン	12-1 水と緑の散策路づくり	改定後のアクションプラン の具体的な内容については 2020年度にかけて検討していきます
	12-2 緑のやすらぎ空間づくり	

※今後の取組みの方向性（案）を受けて、アクションプラン12-1および12-2の具体的な内容に反映

【参考】 蒲田駅周辺地区グランドデザイン(平成22年)に基づく まちづくりの進捗状況

現行のグランドデザイン		グランドデザインの達成状況			
方針	目標	達成	継続的に推進中	未達成	推進上の課題・未達成の理由 ※⇒以降は課題解決に向けた取組みの例
商業・にぎわい・交流の創出	1. いきいき元気な商業のまち	<ul style="list-style-type: none"> 商店街の活性化施策のアクションプランを策定 蒲田駅東口商店街で、景観づくりに向けた協議会を設立 	<ul style="list-style-type: none"> イベントの開催(町会・商店街・工学院との連携など) 商店街や地域イベントの情報発信 商店街の若手会員の人材育成・横のつながりの連携強化 商店街の後継者づくり 空き店舗に関する情報収集 商店街の建物・景観・用途等のルールづくり 		
	2. 人が行きかう賑わいのあるまち	<ul style="list-style-type: none"> さかさ川通りの整備(H27年度) 観光案内サインの盤面更新 	<ul style="list-style-type: none"> さかさ川通りを活用した地元イベントの開催 「国内外旅行者のための分かりやすい案内サイン標準化指針(H27/東京都)への対応や、情報更新、劣化改善等 まちのにぎわいの主軸となる「蒲・蒲連絡路」の整備 		
	3. 来街者を魅了し、何度も訪れたいまち	<ul style="list-style-type: none"> 新空港線の第1段階として、東急多摩川線を京急蒲田駅までつなぐ整備案を作成 羽田空港直行バスの運行(H22.10) 羽田空港直行バスの増便(H29.4) 	<ul style="list-style-type: none"> イベントの開催(歴史・映画・商い・防災などをテーマにしたプロモーション・展示・まち歩きなど) 大田区ウェルカムショップや大田区まちかど観光案内所の登録施設における、訪日外国人等の受入れに向けた取組み(外国語対応など)の実施 多文化共生推進センターなどの施設を活用した、在住外国人との交流や支援の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 空港利用者向けのサービス施設の検討(羽田空港総合案内所など) 	<ul style="list-style-type: none"> 空港利用者向けのサービスとその提供方法の検討が必要⇒羽田空港跡地整備事業との連携・役割分担
都市機能の向上	4. ゆとりを感じる機能性の高い駅前広場	<ul style="list-style-type: none"> JR蒲田駅西口駅前広場の整備(初動期)の完了 JR蒲田駅東口駅前広場の整備(初動期)の都市計画決定(H28.2)および事業認可(H28.4) 	<ul style="list-style-type: none"> JR蒲田駅周辺の基盤施設の整備内容などについて、関係機関と協議中 	<ul style="list-style-type: none"> 駅前広場の整備(中長期) 既存東西自由通路の改善(拡幅など) 東西自由通路の新設(駅北側・駅南側線路上など) 	<ul style="list-style-type: none"> 東西自由通路・駅前広場・新空港線・蒲田駅・駅ビルなどの計画調整や役割分担の協議のために、関係者間(鉄道事業者・行政・開発事業者等)の調整に相応の時間が必要⇒関係者間による検討・協議の実施
	5. 利便性の高い蒲田駅と公共交通	<ul style="list-style-type: none"> 新空港線の第1段階として、東急多摩川線を京急蒲田駅までつなぐ整備案を作成 羽田空港直行バスの運行(H22.10) 羽田空港直行バスの増便(H29.4) 	<ul style="list-style-type: none"> 新空港線の実現に向けて、関係機関と協議中 バス利用者の利便性や蒲田のまちづくりに寄与するバスルートの設定に向けて、バス事業者と協議中 	<ul style="list-style-type: none"> 蒲田駅や駅ビルの再整備 新空港線の整備 	
	6. 商・住の調和のとれたまち	<ul style="list-style-type: none"> まちなみ誘導型地区計画などの導入(※京急蒲田駅西口地区地区計画は現GDの策定前に決定) 蒲田4-2地区都心共同住宅供給事業完了(平成19年度) 蒲田4-1地区都心共同住宅供給事業完了(平成24年度) 京急蒲田西口駅前地区市街地再開発事業完了(平成27年度) 京急蒲田センターエリア南第二地区(蒲田四丁目16番街区)共同化事業 事業中 	<ul style="list-style-type: none"> 建物更新や共同化の促進に向けた勉強会 商業エリアを対象に、低層部に商業・業務の置き込みで連続性を確保し、高層階を住宅等とすることで、店舗と住宅が融合したまちづくりを推進 		
まちの快適性の確保	7. 京急蒲田駅周辺のまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> 南蒲田交差点の立体交差化(H24) 京急本線・空港線連続立体交差事業の完了(H24) 京急蒲田西口駅前地区第一種市街地再開発事業の完成(H27) 京急蒲田駅西口駅前広場の整備(H27) 京急蒲田駅東口駅前広場の整備(H28.3) 京急高架下を活用した自転車駐車場等の整備 大田区総合体育館と隣接する東蒲田公園の整備(H24) 	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民が主体となった、地域の特徴を活かしたまちの新たな魅力づくり 		
	8. 歩行者と自転車が快適に共存できるまち	<ul style="list-style-type: none"> 区役所本庁舎前やアロマスクエア等の自転車駐車場の収容台数を増加 蒲田駅西口呑川横に一時自転車駐車場を整備 京急高架下を活用した自転車駐車場等の整備 自転車ネットワーク整備実施計画の策定(H27) 放置自転車の減少 	<ul style="list-style-type: none"> 蒲田駅東口駅前地下自転車駐車場の整備の推進 自転車ネットワーク整備実施計画に基づき、自転車走行環境を整備 「地域力を生かした大田区まちづくり条例」に基づき、開発に伴う自転車駐車場の付置を指導 自転車放置防止指導員や自転車押し歩き推進員による指導 放置自転車の撤去 		
	9. 人にやさしいまち	<ul style="list-style-type: none"> 蒲田駅周辺地区の移動等円滑化推進計画(かまた街なか“すいすい”プラン)の策定(H24.3) 	<ul style="list-style-type: none"> おおたユニバーサルデザインのまちづくりパートナーによる点検活動・ユニバーサルデザインの推進 ユニバーサルデザインに関する教育や講座の実施 かまた街なか“すいすい”プランに定める特定事業計画(142件)に基づき、バリアフリー化整備を推進 条例や要綱に基づき民間建物のバリアフリー化を促進 		
	10. 安全で暮らしやすいまち	<ul style="list-style-type: none"> 防犯カメラや防犯灯の設置 建物の耐震化費用の助成 地域住民によるパトロール 	<ul style="list-style-type: none"> 建物の耐震化費用の助成 特定緊急輸送道路沿道建築物の耐震化の推進 自治会町会や学校などにおける防災訓練や防災講和の実施 地域住民によるパトロール 防犯カメラや防犯灯の設置 		
	11. 清潔で美しいまち	<ul style="list-style-type: none"> 清掃活動の実施 違法看板などの路上障害物対策の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 清掃活動の実施 違法看板などの路上障害物対策の実施。定期的に違法看板等の撤去や所有者への指導を実施。 大田区景観計画に基づく良好な景観形成の誘導 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の歴史・文化をとどめる資源の保存 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の歴史や文化を含めた“蒲田らしさ”の明確化や、その保存や活用に向けた活動の展開が必要⇒蒲田の人々の参画による“蒲田らしさ”の明確化とPR
12. 水と緑のある、潤い感じるまち	<ul style="list-style-type: none"> 仲蒲田公園の改修(H28) 東蒲田公園の整備(H24) 	<ul style="list-style-type: none"> 呑川緑道の整備に向けた取組み(東口駅前広場の地下駐車場の整備後に、呑川沿いの暫定自転車駐車場を撤却する計画など) 呑川の水質浄化に向けた取組み(高濃度酸素水浄化施設の整備・河床整生工事・スカム発生抑制装置の運転など) 公園の改修・リニューアル(京浜蒲田公園など) ふれあいパーク活動団体と連携したによる公園の管理や活用の推進 街路灯のLED化 			

【参考:第1回専門部会資料を更新】 蒲田のまちづくりにおける課題

基本方針	目標	蒲田のまちづくりにおける課題			
		1. 上位計画	2. 社会的な動向	3. まちの変化 (データ分析より) ※⇒以降は変化に対応して必要な事項	4. 現行GDに基づくまちづくりの進捗状況 (推進上の課題・未達成の理由) ※⇒以降は課題解決に向けた取組みの例
商業・にぎわい・交流の創出	1. いきいき元気な商業のまち	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 地域特性を活かした商業の強化。飲食、物販などが集積し、多様な表情を持つ利便性の高いまちの構築 ▶ 駅前広場や道路等を活用したイベントなどにより、にぎわいや交流の機会の創出 		<ul style="list-style-type: none"> ▶ 若い単身世帯が増加している ⇒若い単身世帯のライフスタイルにも対応した商業についても考えることが必要 ▶ 小売年間販売額は増加傾向にある。特に夜間人口(居住者等)の増加が著しい地区では年間販売額の増加も顕著である ⇒増加する居住者等を対象とした日用品の需要への対応が必要 ▶ 小売店舗数、面積は年々減少傾向にある ⇒商店街や個人商店の活性化に向けた継続的な取組みが必要 	
	2. 人が行きかう賑わいのあるまち	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 駅や駅前広場などにおける歩行者空間の拡充や、サインや観光情報センター等の案内や情報発信の改善など。 		<ul style="list-style-type: none"> ▶ 駅と北東方向(ぼぶらード等)や北西方向(すずらん通り等)を往来する歩行者が減少傾向にある ⇒蒲田駅から北東方向・北西方向へと歩行者を導く取組みの検討が必要 ▶ 蒲田駅から南東方面(アブリコ等)や南方面を往来する歩行者が増加傾向にある ⇒蒲田駅から南東方向や南方向への歩行者動線を強化することの検討が必要 	
	3. 来街者を魅了し、何度も訪れたいまち	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 羽田空港と連携した国内外のワーカーや観光客などを受入れる機能の強化。 ▶ 新空港線整備や蒲田駅再生整備により、羽田空港へのアクセス性を強化し、外客受入戦略拠点としての基盤を構築 		<ul style="list-style-type: none"> ▶ 外国人(住む人・訪れる)の増加 ⇒外国人も安心して暮らせるまちづくり(地域活動・行事の呼びかけ、交流支援など)が必要 ⇒サインなどの多言語表示案内が必要 ⇒観光に関わる人材の育成の組織化が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 空港利用者向けのサービスとその提供方法の検討が必要 ⇒羽田空港跡地整備事業との連携・役割分担
都市機能の向上	4. ゆとりを感じる機能性の高い駅前広場	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 駅前広場の整備などにより、公共交通の利便性を向上し交通結節機能を強化。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 近年、駅前広場等を活用したイベント等による地域交流が進められている(姫路・大阪など) 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 鉄道駅(3路線)の利用者は年々増加傾向にある ▶ 駅舎・駅ビルに入出入りする歩行者は増加傾向にある ⇒駅利用者の増加に応じて、駅前広場や自由通路を拡充していくことが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 駅・駅前広場・東西自由通路・新空港線・駅周辺再開発などを一体的に捉えた機能更新の検討が必要 ⇒関係者間による検討・協議の実施
	5. 利便性の高い蒲田駅と公共交通	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 東海道軸上に位置し、羽田空港に近接する蒲田を、国内外ネットワークの結節点へと進化 ▶ 東西自由通路の整備、駅舎や駅ビルの機能更新、駅とまちの一体的な整備により、市街地の分断を解消し駅周辺エリアの回遊性・にぎわいを向上。 			
	6. 商・住の調和のとれたまち			<ul style="list-style-type: none"> ▶ 小売年間販売額は増加傾向にある。特に夜間人口(居住者等)の増加が著しい地区では年間販売額の増加も顕著である ⇒増加する居住者等を対象とした日用品の需要への対応(スーパー等)が必要 ▶ 港区・品川区・千代田区や神奈川県で働く人も多い ▶ 事務所や工場が減少し、集合住宅が増加している ▶ 事業所数は減少傾向にある ▶ 空室率は減少傾向にある。賃料水準は近隣の区に比べると低い ⇒「リーズナブル」という強みも活かしながら「蒲田で働く場所」や「蒲田で働く人」を増やして、地域経済を活性化させることが必要 ▶ ホテルが増加しており、その稼働率は高い。羽田空港向けのホテルの増加が顕著。外国人の宿泊者が増加 ⇒増加するホテル需要や外国人への対応が必要 ▶ 比較的小規模な建築物が高密度で集積、駅周辺の建物は老朽化が進んでいる ⇒共同化や建替えの検討が必要。 ▶ 蒲田駅周辺地区全体として容積利用率が低い。蒲田駅前においても、使用容積率が半分程度 ⇒駅周辺の高度利用等により、商業・業務・生活利便機能等を充実させていくことが必要 	
	7. 京急蒲田駅周辺のまちづくり				

【参考:第1回専門部会資料を更新】 蒲田のまちづくりにおける課題

基本方針	目標	蒲田のまちづくりにおける課題			
		1. 上位計画	2. 社会的な動向	3. まちの変化 (データ分析より) ※⇒以降は変化に対応して必要な事項	4. 現行GDに基づくまちづくりの進捗状況 (推進上の課題・未達成の理由) ※⇒以降は課題解決に向けた取組みの例
まちの快適性の確保	8. 歩行者と自転車が快適に共存できるまち		<ul style="list-style-type: none"> 歩行者と自転車が安心・安全に通行できる空間の確保や、コミュニティサイクルの拠点整備による回遊性の向上・にぎわいの創出 	<ul style="list-style-type: none"> 放置自転車等の撤去活動や駐輪場への誘導などが促進され、放置自転車は大幅に減少。 ⇒今後も新たな自転車駐車場の整備。放置自転車撤去や、啓発などのソフト施策の継続的な活動が必要 駅周辺で自転車盗難が増加。平成30年度は都内でワースト2位。犯罪件数も多い。 ⇒今後も防犯パトロールの継続と強化が必要 	
	9. 人にやさしいまち		<ul style="list-style-type: none"> 高齢者・障がい者・妊婦・子ども・外国人などにも配慮したまちづくりが進められている 	<ul style="list-style-type: none"> 外国人(住む人・訪れる)の増加 ⇒外国人も安心して暮らせるまちづくり(地域活動・行事の呼びかけ、交流支援など)が必要 ⇒サインなどの多言語表示案内が必要 	
	10. 安全で暮らしやすいまち	<ul style="list-style-type: none"> 地域が主体となった防災力の維持・強化が必要 	<ul style="list-style-type: none"> まちづくり(建替え・共同化など)とも連携しながら無電柱化を推進 東日本大震災(平成23年3月)後、巨大地震などの未曾有の自然災害にも対応する安心・安全なまちづくりへの高まり 	<ul style="list-style-type: none"> 建築物の不燃化率は上昇している ⇒今後も不燃化に向けた継続した取組みが必要 駅周辺で自転車盗難が増加。犯罪件数も多い ⇒今後も防犯パトロールの継続と強化が必要 	
	11. 清潔で美しいまち				<ul style="list-style-type: none"> 地域の歴史や文化を含めた“蒲田らしさ”の明確化や、その保存や活用に向けた活動の展開が必要 ⇒蒲田の人々の参画による“蒲田らしさ”の明確化とPR
	12. 水と緑のある、潤い感じるまち		<ul style="list-style-type: none"> 開発や線路の地下化に合わせた緑化の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 緑被率は減少傾向にある ⇒駅前広場等に緑を配置。緑あふれる憩いの場づくり。 	
現行 グランドデザインの 目標やアクション プランの枠組みには あてはまらない内容		<ul style="list-style-type: none"> 駅とまちの一体的な整備や市街地の機能更新にあわせて、国際的な産業・ビジネス機能や外客受入機能を強化【現行GDの目標3・目標6に関連】 市街地の機能更新などにあわせて、生活支援機能(図書館、保育所、病院、健康施設等)を強化【現行GDの目標6に関連】 駅周辺の公共施設を再編・活用【現行GDの目標6に関連】 多様な人々が集い・出会い・交流できる空間や機会の拡充【現行GDの目標1・目標2に関連】 蒲田駅周辺地区のPR・商業振興・防犯活動・美化活動などを産官学民連携で進めていくことが必要【現行GDの目標1・目標3・目標10・目標11に関連】 「商業・産業の街」から「居住の街」へと変化している状況への対応が必要【現行GDの目標1・目標5に関連】 			